

第 66 回 大分県事業評価監視委員会

日時：令和 7 年 2 月 13 日（木） 10:00～12:00

場所：トキハ会館 5 階 ローズの間

議題：公共事業評価（再評価 4 件）

出席委員：角山委員長、田中委員、亀野委員、鈴木委員、北西委員、川田委員、志賀委員

対象事業：

1. 【再評価】 道路改築事業 主要地方道大分大野線 安藤工区
2. 【再評価】 道路改築事業 一般国道 2 1 7 号 佐伯弥生バイパス
3. 【再評価】 道路改築事業 一般国道 3 8 7 号 豆生野拡幅
4. 【再評価】 港湾改修事業 重要港湾別府港 石垣地区

（審議開始）

1. 【再評価】 道路改築事業 主要地方道大分大野線 安藤工区

○道路建設課 説明 10:05～10:13

○委員

現地調査に行った感想として、本当に非常に危険だと感じた。ジャンボタクシーの運転でも、正直怖かった。対向車が幸い来なかったが、来た場合、バックもできないし、どこで離合するのかなと思った。危険性はものすごく感じた。また説明にもあった通り、事業を計画したときとは状況が変わり、人口も減少しており、中九州横断道路もできた。弓立上戸次線の中野工区が令和 10 年の完成予定だが、交通量等を考えると必要性に疑問があり、この事業を再開するのかなどうか、中止の可能性も含めて、その時点で検討する必要があると感じた。

○道路建設課

これから人口減少も加速し、周辺の道路整備の状況も刻一刻と変わっているので、この事業を再開する際は、2 車線で再開するのか、待避所レベルで計画を見直すのか、それとも中止が望ましいのか、あらゆる可能性をしっかりと検討していきたい。

○委員

前回、1.5 車線的整備という言葉があったと思うが、今回、その文言が無くなっている。他にも事業説明会から変えている表現があるが理由は何か。

○道路建設課

全体的にわかりやすい表現に修正した。現地は、1.5 車線的整備というより、待避所の設置であるため、その方が適切と思い修正した。

○委員

日交通量が 56 台のために、今後、数十億円の事業費が必要というのは、大いに検討する
必要があり、待避所があれば十分と感じた。どちらかといえば、中止の方向で検討した方
がいいと思った。

○委員

危険箇所は、必要最小限の安全を確保するため、別事業で実施したとのことだが、引き
続き実施しているのか。

○道路建設課

事業を休止したときに、地元の方々と現地で立ち会いし、特に危険な箇所、全部で 18 ヶ
所については別事業で待避所を設置し、当面の安全性を確保しているので、この状態で様
子を見ていく予定である。

○委員

5 年前に現地調査に行った際、道路の狭さと危険性を感じたが、大分県内には同様の道
路が多く、地元の人々はうまく対処している。道路整備による地域活性化の可能性も認め
るが、事業の継続や中止は状況を見ながら柔軟に対応すべきだと思う。最終的な判断は後
任の委員に委ねることになるため、資料の作成は今後も分かりやすさを重視してほしい。

○道路建設課

分かりやすい資料の作成を心がける。

○委員

用地進捗率 42%となっているが、これ以外に、県から土地を買いたいと申し入れている
ところはないか。

○道路建設課

これ以外にはない。

～10:24

2. 【再評価】 道路改築事業 一般国道 217 号 佐伯弥生バイパス

○道路建設課 説明 10:24～10:36

○委員

県の立場としては、それなりに目的は達成されており、急いでさらに進めていく必要は
ないが、一定の交通量があるので何らかの対応をしないとイケない。その一方で、交通量
が減少しているので、今判断するのではなく、もう少し時期が経ってから判断したいとい
う立場だと思う。一方、再評価書 2-1、2-2 に、現状のことについてはたくさん書いている
が、まだ必要性が残っているという記載がない。なぜ中止ではなく、休止なのかを分か

るように記載してほしい。

2-12 について、「緊急性に高まりはない」は分かるが、一方で「必要性に変化なし」という記載もあり、どちらなのかと思った。「未だに必要がある」や「一定程度必要性が認められる」というように記載すると、すごくわかりやすいと思った。

○道路建設課

修正する。

○委員

今休止している箇所の道路を改めてこれから整備すると、かなりのお金がかかるなど、現地調査でよく分かった。交通量は、バイパスができたことによって、ある程度予想どおりうまくいっていると思う。佐伯市の状況と今後の佐伯市の計画もあると思うので、それに沿って、今後の課題について話し合ってもらえればと思う。一方、現道の国道 217 号の老朽化や歩道の狭さなど課題がある。特に、自転車通行の不便さや商業施設周辺の段差、冠水問題などがあり、優先的に整備すべきだと思う。今回の事案は、バイパスのことだが、他に近隣で改善が必要なところがある。だからそちらを優先しなければならないことを、もう少し書いてもいいのではと思う。このバイパスのことだけを言いたいために、記載がどうしてもバイパスに偏っていると感じた。今後、未整備区間を繋げようとしたら、かなりの金額が必要になり、今後予測される人口減少の状況からすると、緊急性や優先度が下がってくると思うので、そのようなことも、今後合わせて説明して貰うと、より理解度が深まると思う。

○道路建設課

現道の国道 217 号には、スーパーや個人商店があり、歩道の段差などの問題も残っている。これについては、警察や学校と連携し、毎年交通安全の総点検を実施している。ご意見頂いた段差の解消などの改善点についてはバイパス工事とは別に対応していきたいと思う。また、バイパスの整備だけでなく、周辺環境についても足りない部分と整っている部分を比較し、優先順位をしっかりと考えて対応していく。今後、このような取り組みについて、分かりやすく説明できるよう努力する。

○委員

第 3 期工区の事業について、佐伯市の都市計画の中でその重要性や必要性があげられているということだが、事業目的の中では、渋滞緩和や安全性向上、高さ制限箇所の回避が含まれているが、まちづくりの観点から駅周辺の活性化や誘導も目的の一つではないかと考えている。もしそうであれば、それを事業の目的に組み込むことが重要だと思う。この点について、懇談会などで第 3 期工区の実施に関する意見が出ているのか、その辺りについての意見を伺いたい。

○道路建設課

佐伯市の方と駅周辺や港周辺の事業展開について話し合いを始めた段階であり、具体的な意見はこれからだが、佐伯市も進めていきたいと考えていることは伺っている。私たちもその動向を見守りながら、必要であれば再検討していきたいと考えている。

○委員

交通渋滞の緩和だけではなく、他にも重要な役割があるのではないかと感じた。もしそのような要望があって計画が進められているのであれば、事業目的にもその点を含めて考慮してほしいと思う。

○委員

現地調査に行った際は、国道 217 号では、あまり混雑はなかったが、朝夕は少し混雑するかもしれないと感じた。更に計画を進めるにはトンネルを掘るなど大変な作業が必要であり、一方、現在の第 2 期工区まで完了した道路状況では右折して 217 号に入る中央通 2 丁目の交差点から駅までの混雑がどうなるか気になった。しかし、以前と比べると、人通りは減り、活性化もあまり進んでいないようなので、少しの混雑はあっても、このままでも問題ないのではないかと思った。佐伯市全体の道路事業全体を見た上で、優先順位をつけるべきだと感じ、この事業は一旦休止して様子を見た方が良いと思った。

○委員

私も全く同じ意見である。現在、残事業費は約 76 億円で、構造やその他の要因を考慮すると、事業費はさらに 2 割増加して 90 億円を超える可能性があり、最終的には 100 億円近くになるかもしれない。この事業の中で、第 3 期工区はトンネルや橋梁が中心で、非常にコストがかかる部分である。地質調査によっては、さらに事業費が増える可能性もある。このように未確定要素が多いため、現状の設計基準交通量を超えているものの、100 億円近い費用を無駄にせず、現状のままで良いアイデアを見つけられないかと思った。

～10:52

3.【再評価】 道路改築事業 一般国道 387 号 豆生野拡幅

○道路建設課 説明 11:05～11:17

○委員

大型車が非常に多いとご説明いただいたが、一番新しいデータで、大型混入率はどのくらいか。

○道路建設課

約 16%である。

○委員

3-15 の法面アンカー工の追加について、アンカー工プラスの法枠工を含んで、3.8 億円ということか。

○道路建設課

はい、アンカー工プラスの法枠工を含んで、3.8 億円である。

○委員

現地調査に行った際、ジャンボタクシーで大型車とすれ違う場面があり、非常に危険を感じた。大型車同士のすれ違いが難しいことは事前に聞いていたが、実際に体験してみて、恐怖を感じた。その後、さらに奥まで車で通ったが、急カーブが非常に危険で、大型車が通ることの難しさを実感した。説明を受けている間も大型車の交通量が多く、事業の必要性を強く感じた。この区間全体が整備されることで、目的や効果が大きく発揮されると思うので、ぜひ継続してほしい。

○委員

現在の道路幅員が 2.75 メートルで、木材運搬車が約 2.5 メートルの幅を持つため、すれ違う際に余裕がなく、カーブでセンターラインをはみ出す危険がある。他の資料を見ると、幅員が 3 メートルもあるようだが、必要な幅員が確保されていないと危険を避けることが難しいと思う。特に、現在の道路設計では車両の幅や路肩の整備が不十分で、脱輪などのリスクがある。今後、新しい道路を作る際には、現状の車両幅や道路構造令と照らし合わせて、幅員を広く取ることが重要だと思う。また、待避所の設置や側溝の蓋設置なども必要である。林業が盛んな地域であり、道路整備は産業発展に不可欠なので、より使いやすい道路にするために十分な整備を行うべきである。

○道路建設課

道路の構造は道路構造令という基準に基づいて決まっており、今回の道路は 3 種 4 級に設定されている。この基準により、幅員は 2.75 メートル、路肩は 0.75 メートルと定められている。設計速度やカーブの曲線半径も規定されており、木材運搬車は、特殊車両を除き、2.75 メートルの車道内で通行でき、車線をはみ出すことはない。カーブがきつい場合は、幅員を広げることが認められており、そのような工夫も行っている。

○委員

どのぐらいまで広げて良いのか。

○道路建設課

最大で 1.5 メートル、片側で 0.75 メートルの幅員を広げることで、2.75 メートルが 3.5 メートルになる。また、現道拡幅に伴い、余った土地を舗装して道路を広げ、側溝に蓋をするなど、大型車同士のすれ違いに配慮したいと思う。

○委員

3-11 の現道の問題点の防災・救急医療について、もし通行止めになった場合、救急車や消防車が、大型車の迂回ルートを通行することになるのか。

○道路建設課

普通車であれば通行可能だが、車両撤去時などに全面通行止めが発生することがある。2 車線と路肩を確保すれば、片側のみでも通行できるようになる。

○委員

通行止めになった場合、救急車も通れなくなるのは分かるが、現状の問題点に記載されている救急車については別のルートがあるため、大型車の迂回ルートという表現は適切ではないのではないか。

○道路建設課

市道の迂回路もあり、冬場でなければ救急車なども通行可能である。ここでは、物資を運ぶ大型車を想定している。

～11:30

4. 【再評価】 港湾改修事業 重要港湾別府港 石垣地区

○港湾課 説明 11:30～11:42

○委員

4-12のにぎわい空間の創出について、駐車場や緑地、展望所について記載されているが、この展望所などは県の事業として進めるのか、それとも官民連携事業として進めるのか。

○港湾課

官民連携事業で整備していく予定である。

○委員

駐車場から展望所までの距離が長く、どのような人が利用するのか疑問に思った。展望所が観光の目玉になるのであれば、設置の意義はあると思うが、現状では旅の途中で立ち寄る場所としてその必要性が気になる。

○港湾課

このパースだが、事業立ち上げ以前にイメージとして作成されたものである。今後、民間の意見を取り入れながら、駐車場の配置などについて議論し、にぎわい空間を作っていく予定である。

○委員

フェリー上屋と緑地の予算が31億円と一番大きいのが、その詳細な内訳を明確にすることで費用削減の意識が高まるのではないかと。

○港湾課

現時点では、先程のイメージ図に想定した整備内容を基に算出している。31億円の予算は概算であり、今後の官民連携事業が進む中で具体的な内訳を明示したい。

○委員

31 億円という予算の根拠が不明確であり、具体的な見積もりを提示するべきではないか。物価上昇により 40 億円に増額する可能性があるとのことだが、その内訳を説明してほしい。

○港湾課

概略設計を行っており、積み上げて概算の工事費を算出している。

○委員

後日で良いので資料を見せてほしい。

○港湾課

はい。

○委員

にぎわい空間の創出について、事業手法が不明確と感じた。もし PFI 方式を採用するならば、募集要項やサウンディング調査をどのように進めていくのか。スケジュール的にはどのような状況か。スキームはどのように考えているのか。

○港湾課

事業開始当初と現在では状況が変わり、新たな制度が導入されているため、柔軟に対応していく必要がある。国の事業とも調整しながら、最適な事業手法を検討していく。詳細なスキームは今後詰めていく予定である。

○委員

にぎわい空間の創出も重要だが、まずは船を利用する人の利便性を最優先に考えるべきだと思う。タクシーやバスのアクセスが悪く、利用者の利便性を考慮した計画が必要だと思う。

○港湾課

2 次交通の改善について、別府市役所の観光セクションと協議を進めているところである。

○委員

別府港の利用について、案内看板が少なく、アクセスが分かりづらい。クルーズ船が到着する場所と市街地までの距離が遠く、徒歩移動が困難である。観光業関係者や別府市と連携し、より活用しやすい環境を整備すべきだと思う。

○港湾課

別府港を人流拠点と位置付けており、利便性向上のため、今後とも別府市等と連携して進めていく。臨港道路整備においても、案内表示の工夫を今後検討していく。

～12:02